

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101618		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホーム ハルスのお家(1F)		
所在地	岐阜県岐阜市御望字天神951番地170		
自己評価作成日	平成23年9月15日	評価結果市町村受理日	平成23年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170101618&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の行事や慣わし、季節のものを見物に行ったり畑などで旬のものを食べていただいたりなど季節を感じられるようにしてます。調理などその方にできることを探してできる限りでやっていただくように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの裏山は、雑木が山頂まで密集し、野鳥や昆虫の宝庫で、目の前を飛び交っている。利用者は、恵まれた自然環境の中で、自然と触れ合い、季節を感じながら、穏かな日々を送っている。平成13年の開設以来、自治会の一員として地域に溶け込み、すべての地域活動に関わりながら、地域に密着した事業運営を行っている。管理者と職員は、利用者とのコミュニケーションを大切に、一緒に喜怒哀楽を共有しながら、その人らしく、その人に合ったケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念の頭文字を社名にしており、毎月のミーティングで理念を全員で読み上げている。	理念は「その人がその人らしく生きるために支える」を掲げている。理念は、定例会議で全員で読み上げ、共有している。地域住民と親しく交流しながら、その人らしい生き方を支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を回したり、スタッフが地域活動(掃除活動、市民運動会、自治会の集会)に参加している。地域の方よりお野菜をいただくこともある。	自治会員として、地域に根差し、すべての地域活動に参加している。公民館活動では、認知症の理解に努めている。職員にも近隣住人がおり、馴染みの人たちからは、野菜などが届けられている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのお便りに介護保険についての相談などお気軽に立ち寄ってもらえるように記載している。 ホームにボランティア募集のポスターを張り出している。キャラバンメイトの講習を受け、認知症サポーター養成講座の開催を予定しており、お誘いをしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2ヶ月に1回行い、ホームの状況や行事、評価について報告している。参加者にご意見をいただきサービス向上に活かしている。	会議は、行政・地域関係者・家族が参加し、隔月に開催されている。運営報告や災害対策、サービス評価の課題等で、意見を交わしている。その結果は、法人関係者や、全職員で検討し、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、わからないことがあればすぐに連絡をし解決するようにしている。	運営推進会議では、担当者に運営状況を報告している。また、生活保護対象者やホームの移転、増床などで相談している。分からないことは、随時連絡し、助言を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルを作成し、ミーティングにて勉強を行うようにしている。センサー等で状況確認している為夜間以外は施錠していない。	拘束禁止マニュアルを基に、定期的に、勉強会を行っている。 これまでと同様に、拘束のないケアを実践している。日中は、玄関の鍵を開放し、自由に入出入りしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどにて学び、理解して業務に活かすように勤めている。			

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格試験等で学んだ職員もいる。理解不足の職員もいるので、学ぶ機会を作る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をしているが、時間がたち尋ねると理解されてない事があり、その都度説明を繰り返している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほぼ2ヶ月に1度運営推進会議にてそれぞれの意見を聞き運営に反映させている。面会時やお電話をしたときに意見、要望を確認している。	運営推進会議や面会時、電話でも意見・要望を聞いている。家族からは、「受診内容を知らせてほしい、外泊後のケアに配慮してほしい」などの要望があり、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、意見を聞く機会を設けている。必要な場合は反映させている。半年に一回面談を行い、聞いている。	管理者は、月例会議で、職員の意見を聞いている。また、何時でも意見が言える体制である。ケアの困難事例や言葉づかいの配慮について話し合っている。意見等は、優先順位を決め、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し基本的な給与に関しては評価している。社内で統一の評価表を使用し、年2回面談を行い評価を行っている。各フロアの責任者が評価した後に面談し、その結果にて賞与等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	試用期間中はスタッフをつけマンツーマンで使用し毎回、同行記録を記入してもらいフロアの責任者・管理者共に目を通しコメントをしている。一週間ごとに課題を持ち、それに対しても評価を行っている。資格や研修の案内は掲示し受け付けている。資格所得の際は勤務調整をしている。社内研修に関してもこれより充実していく予定あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所側から指示はないが、勉強会などの案内の掲示、参加の申し出があれば勤務を調整し活動できる。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して暮らせるよう関係づくりに努め、日々の生活サイクルも観察し、情報収集している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接に計画作成担当とフロアの責任者が行き、その場で確認している。契約時にもお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接に計画作成担当とフロアの責任者が行き、その場でご本人やご家族、利用中のサービス関係者に確認している。ご本人とご家族の思いの相違も受け止めながらプランや日常の介助で修正をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としていろいろ教えていただいたり、協力していただき関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報交換して、いい方向にもっていきけるように本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の方と交流がほとんど無く、ご本人との会話の中から情報を集め、支援につなげている。	家族の来訪時に知人を誘うように依頼しているが、難しい状況である。外出時に、馴染みの店へ立ち寄ったり、思い出の場所を廻るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を把握し、職員も間に入って利用者さん同士が関われるよう努めています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネ、フロアの責任者がおこなっている。問い合わせがあればいつでも答えている。退居後に面会に行ったり、ご家族からご連絡いただければ葬儀等にも参列させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく過ごしていただけるように、日々の様子によって本人の希望尊重し、職員同士も情報交換している。	利用者と会話の中で、思いや意向を把握している。入浴介助時でも、思いを汲み取っている。把握が困難な場合は、家族から情報を得ている。思いや希望を尊重し、その人らしく生きるために、活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴の把握に努め、その人らしく生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録物や職員からの意見等より把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでモニタリングを行い、3ヶ月毎に見直しを行っている。	全職員による定例のケア会議で、モニタリングをしている。職員の意見や家族の希望を取り入れ、介護計画を作成している。また、3ヶ月毎と、状態の変化があれば随時、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務前に必ず、日誌や申し送りに目を通し、特記事項などの把握、確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まず、入居者の訴えに耳を傾け、状況に応じた支援に心がけている。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	こども110ばんに登録し、必要されている事、お礼の子供達の手書きの手紙に喜んでみえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に受診していただくかたちをとっているが、希望等では往診対応もしている。	協力医は、総合病院と往診に理解のある近くの開業医があり、利用者は、その都度選択ができ、月に2回の往診を受けている。緊急時は、職員が受診に同行している。	受診支援については、口頭で家族に説明するに留まっている。緊急時には職員を長時間拘束することもあり、家族の役割分担・家族への引き継ぎ方法も含め、通院支援の明確なルール作りに期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、異変があった場合は主治医に連絡、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	行っている。入院した際は入院先のケアワーカーに連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前にご家族と話をしている。	重度化への対応については、介護の限界までとする方針を、契約時に家族へ説明している。その対応策の一つとして、利用開始時に、特別養護老人ホームへの申請を行っている。	重度化・終末期の方針を、口頭で説明している。個別の対応や共有の仕方を、文書により行い、同意書を交わされたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のファイルを持っているが把握できていない。定期的な訓練は行っていない。避難訓練時に救命講習は行なっているがまだスタッフ全員に行き渡っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っている。入居者の避難訓練方法、順番を意識している。災害に備え、食料品等準備している。避難訓練等を推進会議にて行い見学していただき、協力をお願いしている。立地地域が急傾斜地崩落地域の為降水量が多いときは避難しないといけなが協力施設に避難できるように契約している。	年に2回の火災訓練を、消防署の指導を受けて行っている。2階からの脱出方法や、優先的にやるべきことを確認している。運営推進会議や自治会を通じ、地域との協力体制を築いている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力しているが対応が十分でない事がある。常に心がけている。	会話では敬語を使い、高齢者を敬っている。どのような話にも耳を傾け、思いを受け入れている。誇りを損ねない言葉づかいについて、職員間で話し合い、徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えられることは出来る限りで応えられるように努力している。食事のメニューや飲み物など答えやすいように質問し決定できるように相談している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした時間の流れの中で入居者の方のいこいや行動に合わせた生活の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服を着ていただいている。衣類が少ない方も工夫している。好みに合わせたおしゃれを支援している。髪型もご本人となるべくご相談しカットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの相談や、下準備や盛り付け等、できる事手伝っていただいている。	利用者は、ホームの畑で育てた野菜を収穫し、食べる楽しみを味わっている。職員も同じ食事を摂り、料理の仕方を教えてもらっている。食材の下準備や盛り付け、片付けも、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定は月に一度行い、増減の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけと必要な介助にしている。拒否される場合もあるので、まめに声をかけることもある、夜は薬剤での義歯洗浄される介助も行う。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えのない方は定期的に誘導している。オムツ等使用の方も基本的にはトイレでの排泄で対応している。	個々の排泄リズムを把握し、適宜トイレに誘導している。夜間は、数人がポータブルトイレを使用しているが、昼は綿パンツを使用し、オムツの使用を減らしている。声かけ誘導で、習慣づけをし、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや、乳酸菌飲料の提供や、腹部マッサージ、主治医との相談で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後が入浴になっており、利用者のペースに合わせて定期的に入れるように常に準備している。	利用者が自由に選択できるように、毎日入浴ができるようにしている。入浴嫌いの人には、時間をずらしたり、タイミングを見て、促している。広い浴室で、ゆったり温泉気分を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムを職員が把握しており、その日の入居者のペースに合わせてスタッフが連携し入眠していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がファイルしてあり目を通して理解するよう努めている。変更あった時は、申し送りをし、把握するよう努めている。服薬までに3回は確認できるようにし、食後も服薬の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみ方が違うことを考慮し、決して無理強いすることがないように心がけている。読み物や歌、塗り絵など個別にて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や買い出し、喫茶店、外気浴へは行きますが個別に希望の外出は難しくなっている。その状況でも外出できるように努めている。	ホーム周辺の生活道路を、毎日散歩している。週に2回は、買い物に出かけている。年間行事として、花見や紅葉狩り、花火などに出かけている。月に1回、ドライブを楽しんでいる。	

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが管理ができない為にお預かりしている。入居者の方にはお預かりしていることといつでも出せることをお伝えしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ、家族の都合のよい時間に対応させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温・湿度計を確認し、入居者の方に具合を聞いて空調の管理はしている。不快や混乱になるものはないように心がけている。	玄関は広く、和風の造りで、落ち着いた雰囲気がある。季節の花や手づくり作品、暮らしの写真が随所に飾っている。窓からの眺めも良く、季節を感じながら、ゆったり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに畳があり使えるようにはなっているがあまり使用することない。状態等に応じて、居室で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込んでいただいてよい事をお伝えしている。実際にタンスなど持ち込んでいる。	居室には広い押入れが設備され、持ち物が整理されている。収納ケースや鏡台、思い出の写真を飾り、落ち着いた空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを行ってもらえるようにプランに上げ、記録している。段差や距離が長い場合は必ず手すりを設置してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101618		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホーム ハルスのお家(2F)		
所在地	岐阜県岐阜市御望字天神951番地170		
自己評価作成日	平成23年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2F)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解している。実践できるよう常にどりよくしている。ミーティングの際に皆で読み上げている。施設内にいつでも目につくよう張ってある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所で顔を合わせた時は挨拶をしている。行事への参加の声かけ、散歩等で会話をしている。地域のいろいろな行事に参加している。回覧板を回してもらっている。地域の方よりお野菜をいただくこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事には声をかけている。運営推進会議において管理者とケアマネが地域の人々の質問にわかるように答えている。キャラバンメイトの講習を受け、認知症サポーター養成講座の開催を予定しており、お誘いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開いている。話し合った事をサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠なし。センサー使用している。身体拘束の内容と弊害を認識している。ファイルを配布されている。取り組んでいる。勉強会を開いたが理解できていない職員もいるので理解を深めるため勉強会を開いていく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、万が一あったら職員同士防止するよう心構えはできている。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学んだ。必要な利用者は活用されている。必要だと思われる方には説明をしている。理解不足の職員もいるので、学ぶ機会を作る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をしているが、時間がたち尋ねると理解されてない事があり、その都度説明を繰り返している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほぼ2ヶ月に1度運営推進会議にてそれぞれの意見を聞き運営に反映させている。意見、要望はいつでも受け付けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、意見を聞く機会を設けている。必要な場合は反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し基本的な給与に関しては評価している。社内で統一の評価表を使用し、年2回面談を行い評価を行っている。各フロアの責任者が評価した後に面談し、その結果にて賞与等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	試用期間中はスタッフをつけマンツーマンで使用し毎回、同行記録を記入してもらいフロアの責任者・管理者共に目を通しコメントをしている。一週間ごとに課題を持ち、それに対しても評価を行っている。資格や研修の案内は掲示し受け付けている。資格所得の際は勤務調整をしている。社内研修に関してもこれより充実していく予定あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所側から指示はないが、勉強会などの案内の掲示、参加の申し出があれば勤務を調整し活動できる。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えられた事には耳を傾け安心していただくようお話している。前の施設の担当者、ご家族、ケアマネから詳しく話を聞き、良い関係作りの準備をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前の施設担当者やご家族に聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯の干し方、畳み方等教えていただいている。味見をしていただいている。暮らしを共にし、喜怒哀楽と一緒に受け止める事により安心感が生まれると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望のある方には家族の協力を得て帰宅している。ケアプランにご家族の願いも取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅には出かける事はあるが馴染みの人に会いに行く事は施設側から率先しておこなっていない。行きたいと希望のある利用者には出かけていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握して入居者同士が気まずくならないよう努めている。入居者同士会話されている時は気にかけてけんかになりそうな雰囲気には会話に入るようにしている。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネ、フロアの責任者がおこなっている。問い合わせがあればいつでも答えている。退居後に面会に行ったり、ご家族からご連絡いただければ葬儀等にも参列させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努力している。把握に努めている。できるだけご本人に決めていただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣をお聞きしたりアセスメントを見て把握するよう努力している。家族に生活歴等聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、申し送り等で把握している。職員間で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っている。月1のミーティングで意見出して話しあって介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間で話し合ったり記録している。おこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援するのにプランのみで収まるのではなく、その時々生まれるニーズに対応している。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	こども110ばんに登録し、必要されている事、お礼の子供達の手書きの手紙に喜んでみえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受けていただいている。ご家族対応の場合は身体の様子など、その都度紙面にして渡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、異変があった場合は主治医に連絡、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	おこなっている。入院した際は入院先のケアワーカーに連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のファイルを持っているが把握できていない。定期的な訓練は行っていない。避難訓練時に救命講習は行なっているがまだスタッフ全員に行き渡っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っている。入居者の避難訓練方法、順番を意識している。災害に備え、食料品等準備している。避難訓練等を推進会議にて行い見学していただき、協力をお願いしている。立地地域が急傾斜地崩落地域の為降水量が多いときは避難しないといけませんが協力施設に避難できるように契約している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力しているが対応が十分でない事がある。 常に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	顔をじっとみられ何か訴えられたい時は側に行きお聞きしている。表情や行動で受け止める事のできるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を言われる方を優先してしまう。口に出されない方は何もできないこともある。自己主張の強い人が優先になってしまう。言えない方にはこちらから声をかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服を着ていただいている。衣類が少ない方も工夫している。好みに合わせたおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1品でも好みの料理を献立に取り入れている。お好きな物をお聞きしているがすべてには応じられないが、バランスを考えて準備している。材料切り、食器洗いを一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量は記録し各自に合った量を取っていただいている。一人一人のカロリー過不足、水分摂取量を把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンを把握してトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の物、果物、ヨーグルトを多く取っていただいている。階段昇降等運動していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2、3日に1回入っている。時には職員の都合に合わせてしまうときがある。順番ではいっている。風呂開く日を週5日から毎日に変更。以前より入りやすい環境になったと思う。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて布団等調整している。室温、湿度を気にかけ整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の処方箋がファイルしてあり目を通して理解するよう努めている。個々の薬の服用方法も考え支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみごとをお聞きしたり、アセスメントで確認して楽しんでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される方には出かけていただいているが口に出されない方も外出していただくようにしている。できるだけ満遍なく外出できるようにしている。		

岐阜県 グループホームはるすのお家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力に応じてお金を所持、買い物に同行している。ほしい物、必要な物があるときは買い物に行き、力に応じて支払いを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたり、手紙のやりとりをしてみえる。一緒にポストへ投函しに行く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン等で刺激を避けている。季節により室内の温度の整備をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル2つに分け、気のあった方と過ごしていただいている。自由に行動されるので居場所の把握につとめている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使われていた家具等居室で使っている。家族の写真を壁に貼ってみえる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がありバリアフリーではないが、手すりを使って生活している。それぞれにあった対応、見守りをしている。		